

はじめまして 共愛会戸畑共立病院 認知症看護認定看護師の加藤美奈と申します。

新型コロナウイルス感染症拡大下において、認知症の方やそのご家族の方々も大変混乱されていることと思います。そして医療・介護従事者の方々は身体症状の観察ケア・認知機能低下予防に加え、感染予防対策を行わなければならない現状があり大変苦慮しながら対応に当たられていることと思います。今回、新型コロナウイルス感染症拡大下における認知症の方への対応について、少しでも参考になるお話しができればと思います。

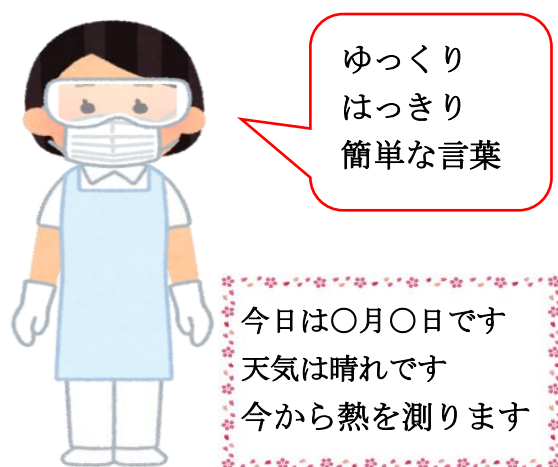
1. 感染予防対策が認知症の方に及ぼす影響とその対応方法

① コミュニケーションエラー

現在感染予防対策のためにマスク・アイガード（フェイスガード）、時にはエプロン・ゴム手袋などを装着して認知症の方へのケアに当たっていると思います。

これらの装備は認知症の方にとって、脅威に感じる方もいらっしゃるかもしれません。こちらの表情が認知症の方にとって把握しづらく、声が聞こえにくいことなどからコミュニケーションエラーが起こる可能性があります。コミュニケーションエラーはケア者が認知症の方の思いを誤解することで、アセスメント間違いを引き起こし間違ったケアの提供に繋がります。そして他者との接触が制限されていることで認知症の方にとっては、情報量の低下・社会性の低下につながり、その結果さらなる認知機能の低下を引き起こす恐れがあります。

コミュニケーションエラーを予防するためにも、かならず視線を合わせ挨拶しながら認知症の方へ近づくようにしてください。「ゆっくり・はっきり・簡単な言葉」で、時にはジェスチャーや紙に書いたものを提示しながら、コミュニケーションをとることが必要です。



② 身体活動量の低下

感染予防対策のために外出自粛や施設への面会制限が行われています。そのために認知症の方は不安感・さみしさ・孤独感を感じ気分が落ち込みやすくなります。その対応不足により認知機能低下や身体活動量低下の恐れがあります。そして食欲低下を引き起こし栄養状態が悪化し、それが筋力・嚥下機能低下となり、誤嚥性肺炎へとつながる悪循環となってしまいます。

身体活動量の低下を防ぐためにも、散歩などの軽い運動をケアに取り入れてください。自宅から出られない方は、午前中に日光を浴びることができるよう窓辺で過ごす時間を作り、概日リズムを整えることも必要です。

高齢者のケアは距離が近くなることもあります。しかし私たち自身の感染予防対策が認知症の方々にとっての感染予防にもつながるため、対策をお願いいたします。

2. 認知症の方の観察ポイント

「いつもと何か違う」感覚が大切です。認知症の方は他者へ上手く自分の症状を訴えることができないことがあります。いつもケアに関わっているからこそ、認知症の方の「何かおかしい」に気づくことがあると思います。せん妄症状の出現や行動・心理症状の増悪は、認知症がひどくなったのではなく身体のきつさが表出されているため、脱水や感染症などの急性期疾患などが起こっていると考えます。せん妄症状は興奮状態だけではなく低活動型のものもあるため、発語量・活動量の減少時もせん妄症状が出現していると考えてください。

そして今の時期は、新型コロナウイルス感染症の症状が出現していないか観察が必要です。本人に自覚症状がなくても会話中に息があがるなどの症状が見られる時は、呼吸回数を数えてみてください。これらの症状を主治医への報告につなげることが異常の早期発見にもなります。



おわりに

現在、私は急性期病院に勤務しています。認知症の方の入院時には「その人らしさを取り入れたケア」が必要ですが、治療や医療安全面が優先となり入院前の生活様式など情報を十分に把握することができないこともあります。

そこで感じることは介護・医療者間で顔の見える関係性づくりが必要だと実感しております。施設間のコミュニケーションを充実させ、実際に顔を見てお互いに意見交換をすることで、認知症の方にとって継続的な介護・看護につながることを考えると考えます。現在、新型コロナウイルス感染症拡大により集合型の研修や会議などが制限されている時期ではありますが、今後方法などを検討しながら皆さんとともに認知症の方を支える地域づくりができていけたらと思います。

引用・参考文献

鶴屋邦江:新型コロナウイルス感染対策をふまえた認知症高齢者ケアの実際. 新型コロナウイルス禍における認知症高齢者のケア研修. 公益社団法人日本看護協会 神戸研修センター.2020 www.nurse.or.jp/covid_19/document/pdf/dementia_care_incovid (2021.2.13)